

平成29年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立栗原中学校 校長 宮里 浩寧 印

1 学校経営構想 (別紙1)

学校経営目標

『ONE 栗原』～目標に向けて、一人一人が自分の知恵と力をすべて出し合
い、その達成を一緒に喜び合える教職員をつくる～

スクールミッション

- 分掌部会の活性化による教職員の学校経営参画意識の向上
- 生徒の主体性の育成を通じた学力向上

目指す生徒像

- 夢や志を抱いている子ども
- 自分自身が好きで、尾道、広島そして日本が大好きな子ども
- 一人ではなくみんなで力を合わせて、課題を解決できる子ども
- 素直に感動して一生懸命が素晴らしいと思える子ども

2 教育研究構想 (別紙2)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

「思考力・判断力・表現力の育成」
～単元を貫く課題設定を通して～

本校における「思考力・判断力・表現力」とは、各教科の目標達成のために生徒が自ら既習の知識・技能を用いて課題を解決する過程で活用する能力のことである。

本校における「単元を貫く課題設定」とは、単元の目標達成のために単元を通じて生徒が主体的に解決したくなる課題または問いを設定することである。その課題または問いを解決するためには、単元で学習する基礎的な知識・技能を活用しながら思考・判断し、言語等を使った表現をする必要がある。適切な課題設定をすることにより各教科で付けたい力を付けるので、「単元を貫く課題設定」について、研究を深める。

(2) 研究主題の設定理由

平成28年度は、研究主題を「主体的に課題解決学習をする生徒の育成」、副題を「－思考の『すべ』の指導を通して－」と設定し、「学力向上」を図ってきた。それまで積み重ねてきた栗原中学校授業モデルをもとに、書く活動に重点をおいた授業3則の徹底、生徒指導の三機能の機能化に、この「すべ」を付け加えて、生徒自らが課題に気付き、解決する力を育成することを目指してきた。思考の「すべ」の中でも特に、「比較する」「既有知識と関連づける」を取り入れた授業実践を展開した。付けたい力を明確にするため、検証問題を先に作成し、その課題が解決できるような力を付けるという、「逆向き設計（バックワードデザイン）」の考え方を取り入れて、全教科で研究を進めてきた。

昨年度の課題として、単元の課題設定の在り方を十分吟味する必要がある。まず、①3年間を通して各教科で付けたい「資質・能力」を明らかにし、単元開発を進めていく必要がある。次に、②付けたい「資質・能力」を踏まえて、基礎的知識・技能を用いて思考・判断した結果を表現する過程を重視しなければならない。最後に、③国や県の動向と入試に対応し、文章やグラフ、図表を総合的に読み取り、思考・判断し、記述式で表現する力を付けることを念頭に置く必要がある。

以上の3点を考慮して、今年度はさらに単元開発を進めていく。

(3) 研究のねらい

学力向上を目的として、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、「単元を貫く課題」を適切に設定する研究を進める。

第1に、今年度も、単元を貫く課題についての検証問題を先に作成し、その課題が解決できるように、指導過程を各教科で検討する。また、思考力・判断力・表現力が向上したか否かを、その検証問題により、見取る。単元を貫く課題設定の適切さについて、次の観点により、各教科と教育研究部で検討する。

(1) 単元目標にせまり、しかも意欲的に解決したくなるような課題設定になっているか

(2) 複数の資料（文章・図表・絵・写真等）から論理的に思考・判断して表現する過程（言語活動等）を重視しているか

（資質・能力との関連）

(3) 思考力・判断力・表現力の見取りを、いつ、どのような評価材とするのか

第2に、落ち着いた学習の雰囲気作りと資料を読み取り記述式で答える問題に対応するため、朝のSHRの時間を使って、「朝読書」「視写」を全校で徹底する。

以上の取組により、思考力・判断力・表現力の向上、さらには学力の向上をねらいとする。

(4) 研究仮説

【仮説】

単元を貫く課題を適切に設定し、課題を解決する過程を重視した指導を行えば、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させられるであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

本研究の内容は次の3点を主眼とする。

- (1) 単元を貫く課題設定と授業実践の研究
 - ① 各教科における検証問題（課題）の作成
（各教科の育てたい資質・能力と単元目標の年間計画）
 - ② 授業実践並びに見取り
- (2) 授業の基盤づくり
 - ① 全校における「朝読書」「視写」の実践
 - ② 全校における検証問題（読解力・語彙力検定）の作成と見取り
- (3) 校内研究の方法に係る研究
 - ① 「1人1研究」による各教科の研究
（R P D C A，アクションリサーチの手法を用いた教育研究の実施）
 - ② グループ研究
（「1人1研究」の交流，指導案検討，授業の事後協議）
 - ③ 教科別研修
各教科で付けたい資質・能力の明確化
単元を貫く課題設定の適切さの検討

(6) 検証の指標

- ① 各教科の単元を貫く目標を適切に設定している割合
- ② 各教科の単元の課題の検証問題における「A判定（満足）」「B判定（おおむね満足）」の評価の割合
- ③ 全校の検証問題の「満足」「おおむね満足」の評価の割合
- ④ 生徒アンケート（課題解決学習に対する意欲，取り組み方）における肯定的評価の割合
- ⑤ 教職員アンケート（単元を貫く適切な課題設定，「書くこと」の指導を含めた思考・判断して表現する過程の重視，「授業モデル」に沿った授業の実施）における肯定的評価の割合

(7) 到達目標

- ① 各教科の単元を貫く目標を適切に設定している割合 100%
- ② 各教科の単元の課題の検証問題における「A判定（満足）」「B判定（おおむね満足）」の評価の割合 60%以上，無答率8%以下
- ③ 全校の検証問題の「満足」「おおむね満足」の評価の割合
- ④ 生徒アンケート（課題解決学習に対する意欲，取り組み方）における肯定的評価の割合 80%以上
- ⑤ 教職員アンケート（単元を貫く適切な課題設定，「書くこと」の指導を含めた思考・判断して表現する過程の重視，「授業モデル」に沿った授業の実施）における肯定的評価の割合 80%以上

4 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
植西 浩一	広島女学院大学 准教授	
木下 博義	広島大学 准教授	
西谷 由季子	東部教育事務所 指導主事	「学びの変革」・国語科

5

研究計画

月日		研究内容	講師
4月5日 (水) 栗原中	第1回 全体研修 全教科	平成29年度教育研究計画 ・尾道市教科別研究指定校の研究主題と研究構想	校長 宮里 浩寧 研究主任 黒飛 和葉
5月17日 (水) 栗原中	第2回 全体研修 第1回 教科別研修	教科で付けたい「資質・能力」 「単元を貫く課題」の設定と指導 検証問題の検討 今年度のこれからの取組	研究主任 黒飛 和葉
6月21日 (水) 栗原中	第3回 全体研修	全体研修(社会科)2年目研修 授業研究 5校時 授業者:後藤教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	尾道市教育委員会 指導主事 山口 晴子
7月6日 (木) 栗原中	10年目研修	10年目研修(国語科) 授業研究 5校時 授業者:関根教諭 研究協議 6校時	東部教育事務所 指導主事 西谷由季子
夏季	第4回全体研修・第1回 グループ研修	1学期まとめ 「資質・能力」, 授業公開に向けて 「1人1研究」	
	第2回 グループ研修	学習指導案検討	
9月8日 (金) 栗原中	第3回 グループ研修 (表現系)	グループ研修(国語科) 授業研究 5校時 授業者:関根教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	広島女学院大学 准教授 植西 浩一 東部教育事務所 指導主事 西谷由季子
9月20日 (水) 栗原中	第4回 グループ研修 (生活系)	グループ研修(数学科)3年目研修 授業研究 5校時 授業者:大武教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	尾道市教育委員会 指導主事 金子 浩之
9月27日 (水) 栗原中 予定	授業公開	授業公開並びに協議 3グループ 表現系G:国・社・音・美 生活系G:数・理・技・家 技能系G:体・英 実践発表 講演	広島大学大学院 准教授 木下 博義 尾道市教育委員会 指導主事 松浦 淳
10月3日 (金) 栗原中	県国研準備	広島県国語教育研究会に向けて 授業研究 5校時 授業者:関根教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	東部教育事務所 指導主事 西谷由季子
11月24日 (金)	県国研	授業研究 ()校時 授業者:関根教諭	
冬季	全体研修	2学期まとめ	

1月17日 (水) 栗原中	初任者研修	初任者研修(数学科) 研究授業 5校時 授業者:花岡教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	尾道市教育委員会 指導主事 金子 浩之
1月23日 (火) 栗原中	初任者研修	初任者研修(理科) 研究授業 5校時 授業者:藤井(康)教諭 研究協議 6校時 ・授業改善について	尾道市教育委員会 指導主事 安保 友理

参考:10年目研修 関根(国語) *県国研 11月24日(金)

3年目研修 大武(数学), 2年目研修 後藤(社会)

初任者研修 花岡(数学), 藤井康(理科) 1月23日

別紙様式 1

平成 29 年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進予算計画書

尾道市立栗原中学校 校長 宮里 浩寧

印

費 目		金 額	明 細
節	細 節		
報 償 費	講師報償費	① 17,600円	①木下 博義 先生 広島大学・准教授 4,400×4h×1回 ②植西 浩一 先生 広島女学院大学 准教授 4,400×4h×1回
		② 17,600円	
	報償費小計	35,200円	
旅 費	講師旅費	① 3,120円	①木下 博義 先生 広島大学・准教授 3,120×1回 ②植西 浩一 先生 広島女学院大学 准教授 3,120×1回
		② 3,120円	
	視察旅費	③ 58,560円	③関西方面学校視察 (新幹線利用, 日帰り) 19,520×3人
	旅費小計	64,800円	
合 計		100,000円	

※報償費、旅費合わせて10万円以下の予算内で計上してください。

○予算計画書は、A4版1枚にまとめ、別紙とすること。

○必要とする経費について

- 予算計画書費目欄は費目（報償費・旅費）に準じて記入し、それに対応する金額及び明細をできるだけ詳しく記入すること。
- 報償費の額については、原則として尾道市教育委員会の基準（県の基準をもとに作成）により積算し、支給する。
- 旅費については、市の旅費規程によるものとする。

別紙様式 2

平成 29 年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進予算計画書（未定）

尾道市立栗原中学校校区 校長 宮里浩寧



費 目		金 額	明 細
節	細 節		
報 償 費	講師報償費	① 17,600円	①環太平洋大学 准教授 前田一誠 4,400円×4時間 ②広島大学 准教授 木下博義 4,400円×4時間
		② 17,600円	
	報償費小計	35,200	
旅 費	講師旅費	① 7,660円	①環太平洋大学 准教授 前田一誠 東岡山～尾道 ②広島大学 准教授 木下博義 西条～尾道
		② 3,120円	
	旅費小計	10,780円	
合 計		45,980円	

合計は必ず6万円以下になるように予算を計画する。

※報償費、旅費合わせて6万円以下の予算内で計上してください。

※校区枠には視察旅費はありません。

- 予算計画書は、A4版1枚にまとめ、別紙とすること。
- 別紙様式2については、中学校から提出すること。
- 必要とする経費について
 - ・ 予算計画書費目欄は費目（報償費・旅費）に準じて記入し、それに対応する金額及び明細をできるだけ詳しく記入すること。
 - ・ 報償費の額については、原則として尾道市教育委員会の基準（県の基準をもとに作成）により積算し、支給する。
 - ・ 旅費については、市の旅費規程によるものとする。